

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取東 高等学校

| | | | |
|------|------|-----|-----------|
| 重点項目 | 英語教育 | 提出日 | 令和4年4月19日 |
|------|------|-----|-----------|

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---------------|---------------|---------------|-----------|----------|-----------------------------------|------------|-------------|-------------|-----------------------------------|---------------|---------------|---------------|---|--|--|-----------|-----------|----------|-----------------------------------|----|----|-----|-----------------------------------|------|------|------|
| 1 学校目標 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。</p> <p>1 主体性を身につけた、自ら学び自ら考え自ら行動する人を育成する。</p> <p>2 社会の中で自らの役割を見つけ、一隅を照らすことのできる人を育成する。</p> <p>3 困難に立ち向かう逞しさ(克己)、他者を思いやる優しさ(親和)、探究する積極性(進取)を持った人を育成する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 重点項目に係る目標・成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 目標 | | 成果 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>スピーキングとリスニングを中心とした英語によるコミュニケーション能力は、大学入試改革においても今後比重が高まっていくと考えられるが、情報を収集し適切に発信していくためには、リーディングおよびライティングも含めて4技能の運用能力を総合的に伸ばしていく必要がある。そこで、授業・家庭学習を通して多くの質の高い input を生徒に与えた上で、授業内の output 活動を日常的に系統的に行う実践により、4技能をバランスよく伸長する教材開発を組織的に研究する。特に、英語ディベート活動は、的確な input (R・L) により根拠を持った output (S・W)につなげる4技能を統合して思考力、表現力の育成を図ることができる活動であり、これを系統的に実施するカリキュラム開発に取り組む。評価指標として、CEFR B1 を超える生徒の人数の増加を目標とする。</p> <p><数値目標> GTEC(4技能)で以下の数値を目標とする。</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年 12月</td> <td>2年 12月</td> <td>3年 8月</td> </tr> <tr> <td>GTEC 960 以上 【CEFR B1、英検 2級】</td> <td>10人 (4)</td> <td>20人 (16)</td> <td>50人 (44)</td> </tr> <tr> <td>GTEC 690 以上 【CEFR A2、英検 準2】</td> <td>220人 (184)</td> <td>270人 (270)</td> <td>270人 (266)</td> </tr> </table> <p>()内の数字：1年生は令和元年度、2・3年生は令和2年度の実績</p> | | | 1年 12月 | 2年 12月 | 3年 8月 | GTEC 960 以上 【CEFR B1、英検 2級】 | 10人 (4) | 20人 (16) | 50人 (44) | GTEC 690 以上 【CEFR A2、英検 準2】 | 220人 (184) | 270人 (270) | 270人 (266) | <p>英語科の教員が、各々授業の中に、4技能の育成がバランスよく配置されるように、英語の授業を組み立て、実践にあたった。特に英語ディベート活動において段階的な指導をしていくようにした。1年生は本校の課題である即興的なスピーキング力を向上させる取り組みを継続して行い、まずは Fluency を高めるところから始めた。またディベート活動では、立論や反論において自分の思い付きだけではなく、情報を収集し、根拠を明確にして発信することを意識して指導した。2年生は、あるテーマに対して様々なところから情報収集し、プレゼンテーションをしたのちにディベートをすることでより知識を持った状態でのディベートができた。3年生はポストリーディング活動として、スピーキングをしたり、エッセイライティングをしたりし、それらの活動が大学入試にも当然有益あることを意識して指導した。</p> <p>下記の表からも分かるように、CEFR A2 レベルに関してはほとんどの生徒がクリアできるが、B1 レベルの生徒が思うように増えていない。特にライティングにおいて伸びが止まる傾向にあり、よりつながりを意識した構成展開力のある output の質を求めていくことが必要であると考えている。</p> <p><数値結果></p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>1年 12月</td> <td>2年 12月</td> <td>3年 6月</td> </tr> <tr> <td>GTEC 960 以上 【CEFR B1、英 検2級】</td> <td>1人</td> <td>8人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>GTEC 690 以上 【CEFR A2、英 検準2】</td> <td>164人</td> <td>242人</td> <td>231人</td> </tr> </table> | | | 1年 12月 | 2年 12月 | 3年 6月 | GTEC 960 以上 【CEFR B1、英 検2級】 | 1人 | 8人 | 26人 | GTEC 690 以上 【CEFR A2、英 検準2】 | 164人 | 242人 | 231人 |
| | 1年 12月 | 2年 12月 | 3年 8月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| GTEC 960 以上 【CEFR B1、英検 2級】 | 10人 (4) | 20人 (16) | 50人 (44) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| GTEC 690 以上 【CEFR A2、英検 準2】 | 220人 (184) | 270人 (270) | 270人 (266) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 1年 12月 | 2年 12月 | 3年 6月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| GTEC 960 以上 【CEFR B1、英 検2級】 | 1人 | 8人 | 26人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| GTEC 690 以上 【CEFR A2、英 検準2】 | 164人 | 242人 | 231人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3 実施事業

【高等学校課事業】

○アクティブ・ラーニング推進のための講師派遣事業

- ・テーマ「大学入試改革に伴う英語4技能育成のための指導法研究」

ICTを活用した協調学習の視点も含めた英語4技能を高める効果的な指導法の研究

→本校 ALT のジョン・フランシス氏による、講演とワークショップを開催した。Apple Classroom や Google Workspace など、英語の授業において活用できる ICT ツールの使い方の紹介や実践を通して、特に令和4年度1年生から全員がタブレットを持つうえでできることを模索した。

- ・テーマ「4技能と思考力育成のための英語 output 活動の活用と評価」

ディベートやディスカッション等のスピーキング活動を取り入れた授業研究会の開催

効果的なライティング活動の実践方法と評価方法についての講義

→新型コロナウイルス感染拡大の影響で実施できなかった。

ディベート活動を中心とする英語キャンプの実施（本校、9月）

→鳥取東高校で実施した英語ディベートキャンプ（1・2年生9名、教職員3名参加）において、福井県より三仙真也先生にオンラインで参加していただき、講演とワークショップを開催した。ディベートの意義とルールについて講義していただき、ディベート実践の指導、評価などをしていただいた。

○大学入試改革に向けた英語力向上対策事業

- ・GTEC 受験

→1年生12月(アセスメント)、2年生7月(アセスメント)・12月(オフィシャル)、3年生6月(オフィシャル)をそれぞれ受験した。

【独自事業】

○英語力養成事業

- ・教員の英語教育研究大会等への参加

英語授業研究学会（大阪府、8月）、全国英語教育研究大会（山形県、11月）

- ・英語スピーキング活動等を中心とする協調学習を活用した授業研究会の開催（12月）

- ・英語ディベートの全国大会への生徒参加

全国高校生英語ディベート大会（群馬県、12月）

→上記いずれも新型コロナウイルス感染拡大の影響で参加できなかった。

【小中学校課事業】

○令和3年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業研修協力校事業」

- ・効果的な input、output の事例等を小中学校にも発信

→連絡協議会や授業研究会などを行った。

4 総合所見（成果・評価）

高等学校課事業、独自事業を通じて、指導改善が少しずつ進み、生徒の英語力も高まっているように感じる。「英語教育に係る鳥取県独自調査」の結果によると、3年生では英語力が「向上した」または「どちらかと言えば向上した」と感じた生徒が9割以上となり、大学入試に向けた取り組みと、ディベートを中心とした発信力向上の取り組みが両立できていると感じている。

特にライティングにおいて、エッセイライティングなどの指導を通して、各々の授業担当者が感じる生徒の伸びは、ある程度存在する。一方で、GTEC などの外部検定試験において、CEFR A2 レベルならほとんどすべての生徒がクリアできるが、CEFR B1 を超える生徒の割合が思うように上がらないという課題はあまり改善されないままであった。より論理的な構成および展開を意識した指導をしていくことが必要であると感じている。そのために ICT 機器も効果的に用いながら、よりつながりがあり説得力のある意見を発信できるようにする指導方法、またその評価方法の確立が来年度に向けた大きな課題である。

また各種研究大会やディベート全国大会など、オンライン開催のものがほとんどではあったが、Chromebook の導入により、参加がしやすくなっている。来年度はぜひ積極的に参加していきたい。

※枚数任意